

平成 27 年度 第 1 回南魚沼版 CCRC 推進協議会 議事録

作成： 南魚沼市企画政策課

| | |
|--|---|
| 期日 | 平成 27 年 7 月 1 日（水）午後 3 時 00 分から |
| 会場 | 南魚沼市役所 大和庁舎 3 階 大会議室 |
| 参加者 | 南魚沼版 CCRC 推進協議会委員（50 音順） 岩井康則委員、岩佐十良委員、門山好和委員、小林昌子委員、関聡委員、 高橋和子委員、武井大貴委員、塚野裕之委員、樋口昌敏委員、藤ノ木靖子委員、 松田友治委員、湯澤尚史委員、渡辺裕委員（代理：秋元幸平氏） （欠席：木村かすみ委員 西野仁委員） 以上 13 名 アドバイザー 新潟県産業労働観光部 参与 河合雅樹 様 井口一郎市長 事務局：清水明企画政策課長 |
| 挨拶 （井口市長） | 本日 7 月 1 日は「友引」の吉日。樂觀する訳ではないが、必ず実現できるよう協 力をお願いしたい。 内閣参事官高橋利久氏より国での検討状況について説明いただき、皆さんで拝聴 のうえ会議を進めていただきたい。 地域内外関係者から多数ご参加いただき大変ありがたい。 地方創生が南魚沼から始まったといわれるよう、意気込みを持って望みたい。 |
| 講演 | 「日本版 CCRC の推進に向けて」 講師：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 内閣参事官 高橋和久 様 （講演内容・質疑については記載省略） |
| 役員選出 | （事務局案を提示し承認いただいた。） 会長：門山好和委員 副会長：関聡委員 （この後、委員全員が簡単に自己紹介） |
| 協議 ① 経過報告 | （説明記載省略、質疑なし） |
| ② 南魚沼版 CCRC の事業推 進方針（案）に ついて （質疑） <u>武井委員</u> <u>清水課長</u> <u>門山会長</u> | （説明記載省略） この推進方針案は、CCRC の事業推進の案を作るための前処理段階の案という 位置付けと理解して良いか？ その通り。検討を進める方向性を確認するもの。 策定に向けて、意見があれば盛り込んで行くという形で進めることとする。 |
| ③平成 27 年度 事業計画（案） <u>門山会長</u> | （説明記載省略） 今後会議（意見を出す場所）を増やすなどは可能なのか？ |

| | |
|-------------------------------------|---|
| <p><u>清水課長</u></p> | <p>可能。良い事業とするためにも、それぞれの分野での部会形式での検討も進めたい。</p> |
| <p><u>塚野委員</u></p> | <p>お試し居住によるマーケティングは、この事業は新しい取組みなので、限定した進め方でなく、対象を広くして実施すべきではないか？ (移住側と受入側のニーズをマッチングさせる(確かめる)上でも、広く実施したほうがよい。)</p> |
| <p><u>清水課長</u></p> | <p>対象を広くしたマーケティングは次の段階にしたい。 このCCRCの基本的な機能を固めるための募集をしたうえで、対象範囲を広げていくこととし、CCRCのコンセプトを大切にしながら進めることとしたい。 第一段階のマーケティングで結果が悪ければ、コンセプトも変更も必要となる。</p> |
| <p><u>門山会長</u></p> | <p>それも含めて、今後検討していくこととする。</p> |
| <p>④その他 <u>渡辺委員(代理：秋元氏)</u></p> | <p>TVマスコミで多く出て「英語に特化」しているが、何十年も先にも継続するためには何らかの経済活動の確立が必要。 健康ビジネス協議会の様々な企業と連携し、活用してほしい。</p> |
| <p><u>門山会長</u></p> | <p>(個人的意見として)やはりお金を生むことも、今後検討していくべきであり、「世界の中の南魚沼市」といったイメージも出してはどうか？</p> |
| <p><u>関副会長</u></p> | <p>(個人的意見として)お試し居住の中でも、地域の情報(生活関連施設など)をもっと知ってもらう内容や、ウィンタースポーツのアピールなども盛り込んだ方がよいのではないか。</p> |
| <p><u>武井委員</u></p> | <p>お試し居住によるマーケティングや本事業全般に係る事業財源の説明をお願いしたい。</p> |
| <p><u>清水課長</u></p> | <p>地方創生の「先行型」で確保している。加えて、3,000万円から5,000万円「上乘せ分」や「新しい交付金」も検討していく。</p> |
| <p><u>会場内より(黒岩先生)</u></p> | <p>移住者は選ぶのか？(健康度やキャリアなど) 既存の施設の例では3年で半分が要介護になっている。介護も想定すべき。 NHKの放送に出ていた方のような人材を求めるのか？(そんなにいないのでは？)</p> |
| <p><u>清水課長</u></p> | <p>年齢や健康度で選ぶ点は、今後検討する部分となるが、人材として来ていただくので、健康な方であることが必要。キャリアでの限定は考えていない。「英語」についてもできる方でなくても可。これから勉強したい方でもよい。 CCRCは英語に触れる機会の多いものになる。 既に問い合わせもあることから、お試し居住を通して確認していく点となる。</p> |
| <p><u>会場内より(不明)</u></p> | <p>杉並区と熱海の特養の例では、年金生活者の資産内容で縛りをかけた。ここのCCRCではそうしたことを想定しているか？(経済的に潤沢な方がターゲットか？)</p> |
| <p><u>清水課長</u></p> | <p>今のところ各種の基準設定まで検討が進んでいない。 経済的な基準も今はないが、移住して家賃をお支払いできることは必要にはなる。</p> |

| | |
|---|---|
| <p><u>武井委員</u></p> <p><u>清水課長</u></p> | <p>CCRCのコンセプトには、地域から移住者への期待として、新たな仕事や雇用の創出に知識や経験を活かしていただくことが入っている。このCCRCではそうしたことを想定しているか？</p> <p>その辺のニーズも把握するために最初はターゲットを絞ることとしたい。</p> <p>(以上で質疑終了、その他に入る。)</p> |
| <p>最後にアドバイザーより</p> <p><u>河合アドバイザー</u></p> | <p>女性の視点から…旦那さんが移住に積極的で興味があっても奥さんの関心が高いコンテンツが無いので奥さんが移住に賛成しないことが他地域の例でも見受けられる。何とか工夫を。</p> <p>女性の参加を増やすための視点から見ると、女性グループとの交流は男性だけの目線ではないか？女性視点を増やすために協議会女性陣の意見を期待する。</p> <p>若者の定着は必要。若者の流出の歯止めと移入の促進を期待するものとして、仕事づくりが肝要となる。(CCRCは、平成版“姥捨て山”ではない。)</p> <p>南魚沼のCCRCは、報道でも取り上げられ、霞が関も含め話題を集めている。チャンスと捉え、うまく対応することも必要と言える。</p> <p>アプローチのあった企業等が自由に事業提案を行なう「サポーター企業制度」のような緩やかな枠組みを立ち上げてはどうか？</p> <p>推進協議会とは別の枠組みとして連携しつつビジネス創出を担ってもらうことが可能な体制を作ることが上記雇用、若者の定着につながる。</p> <p>(17:30 閉会)</p> |